

微分方程式の数値解法を理解し (Euler 法等を思い出し)、プログラミングする。同時に数値解法の「落とし穴」(誤差や桁落ち) について理解する。

でも、まずは Newton 法応用の解答例から。

ベンゼン(A)ートルエン(B)系の圧力 $P=101.3\text{kPa}$ で
液相組成 $x_A=0.4$ モル分率のときの平衡温度 T と気相組成 y を Newton 法で求めよ。
初期値やしきい値は任意に与えよ。

ただし、活量係数は1 (理想系を仮定) する。

液相組成 x_A と分圧 p_A との関係 (Raoult の法則)

$$p_A = P_A^0 \cdot x_A$$

$$p_B = P_B^0 \cdot x_B = P_B^0 \cdot (1 - x_A)$$

二成分系なので、 $x_A + x_B$ は常に 1.0

P_A^0 は成分 A の飽和蒸気圧 (温度に依存した物性値)

$$\ln P_A^0 = 15.33 - 3785/T$$

$$\ln P_B^0 = 15.68 - 4247/T$$

T は絶対温度

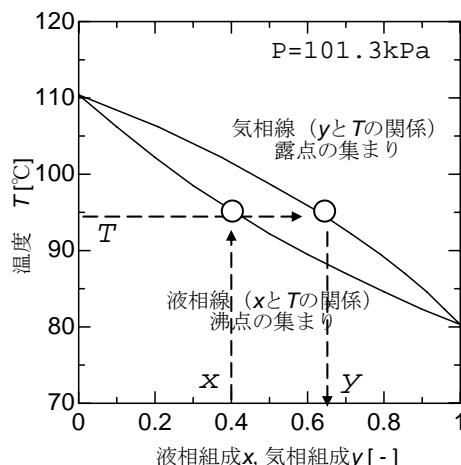


Fig.1 ベンゼン-トルエン系の気液平衡

■プログラム例

```

/*      ***      ***      ***      ***      ***      ***      ***
NEWTON法   演習の解答例
ベンゼン(A)ートルエン(B)系の
気液平衡計算プログラム

***      ***      ***      ***      ***      ***      ***      */

#include <stdio.h>
#include <math.h>

int main(void){
    double t, newt, f, df, ya;
    printf("Please Input Initial Value T0 =");
    scanf("%lf", &t);

    LABEL:

        f=101.3-exp(15.33-3785.0/t)*0.4-exp(15.68-4247.0/t)*0.6;
        df=-0.4*exp(15.33-3785.0/t)*(3785.0/(t*t))
            -0.6*exp(15.68-4247.0/t)*(4247.0/(t*t));

        printf("  t=%f  f(t)= %f  ¥n", t,f);

    newt=t-(f/df);

    if (pow(f,2.0) > 0.00001)
    {
        t=newt;
        goto LABEL;
    }

    ya=(exp(15.33-3785.0/t)*0.4)/101.3;
    printf("*** Final Answer **¥n");
}
    
```

/*から*/
はコメント文
プログラムとは無関係

おまじない

変数宣言
double は小数

文の最後には
";"を付ける

画面出力文

キーボード入力文

"="は右の計算「値」
を右の変数に代入
する意味

べき乗は pow 関数

"¥n"は改行を出力

```

printf(" t=%f [°C]¥n",t-273.15);
printf(" f(t)=%f¥n",f);
printf(" yA=%f¥n",ya);

return(0);
}

```

-----実行開始-----

```

Please Input Initial Value T0 =400
t=400.000000 f(t)= -134.836777
t=376.895557 f(t)= -27.275757
t=369.258985 f(t)= -2.157152
t=368.537972 f(t)= -0.009265
t=368.534821 f(t)= 0.000039
** Final Answer **
t=95.384821 [°C]
f(t)=0.000039
yA=0.622024

```

-----おしまい-----

■本日は Euler 法の理解

初期条件が $x=x_0$ 、 $y=y_0$ であるとき $dy/dx=f(x,y)$ を数値的に解く。
 x の刻み幅を h とすると、

$$\frac{dy}{dx} = \frac{y_i - y_{i-1}}{x_i - x_{i-1}} = \frac{y_i - y_{i-1}}{h} = f(x_i, y_i)$$

したがって一般化すると、 $y_{i+1} = y_i + h \cdot f(x_i, y_i)$

```

/*****
Euler Method (No1)
dy/dx = 1-3y
x0=0.0, y0=0.0

```

刻み幅 h をさまざま変化させ、厳密解と比較せよ。
ただし x の範囲は $0.0 \sim 3.0$

```

*****/

```

```

#include <stdio.h>
#include <math.h>

```

```
int main(void){
```

```

double h;
double x, y, ans;
double x0, y0;
int i;

```

```

i=0;
x0=0.0;
y0=0.0;

```

```

printf("Please Input H=");
scanf("%lf", &h);

```

```

printf(" I,          X,          Y,          ANS¥n");

```

```

x=x0;
y=y0;

```

文の最後には必ず
";"を付ける

double は実数
int は整数で宣言 を示す。

プログラムの "=" は
右辺の "値" を左辺の "変数" に代入することを示す。
数学のイコールとは違う。

i は INTERGER で宣言したから 0
x0 は REAL で宣言したから 0.0

LABEL:

「LABEL」という「場所」を定める。:コロンだ!

```
ans=(1.0-exp(-3.0*x))/3.0;
printf(" %d,    %f,    %f,    %f ¥n", i, x, y, ans);
```

```
i=i+1;
x=x+h;
y=y+h*(1.0-3.0*y);
```

オイラー法の神髄はココだけ

```
if (x <= 3.0)
{
    goto LABEL;
}
```

「LABEL」という「場所」に飛ぶ。

```
return(0);
```

}

-----実行開始-----

Please Input H=0.1

I,	X,	Y,	ANS
0,	0.000000,	0.000000,	0.000000
1,	0.100000,	0.100000,	0.086394
2,	0.200000,	0.170000,	0.150396
.....			
28,	2.800000,	0.333318,	0.333258
29,	2.900000,	0.333323,	0.333278

-----おしまい-----

■課題1

中間試験問題の 4 を実際にオイラー法で解け。 $\frac{dy}{dx} = \frac{1}{(x^2+x)}$ $x_0=1.0$ のとき $y_0=0.0$

$$y = \ln\left(\frac{x}{x+1}\right) + \ln 2$$

■課題2

12.5 m³ の水槽があり、これに 0.050 m³/s の流量で水が注入されている。しかし、水槽に 1.2 m³ の水がたまった時点で、水槽の底から水が漏れだした(この時間を t=0 とする)。水の漏れは時間の関数となっており、0.0025 × t m³/s であった。微分方程式を数値的に解き、水量の経時変化の概略をグラフで示せ。

蓄積速度 (蓄積量/時間)

= 流入速度 - 流出速度

$$\frac{dV}{dt} = 0.005 - 0.0025 \cdot t$$

Euler 法で考える

$$f(t) = \frac{dV}{dt}$$

$$f(t_{i+1}) = f(t_i) + h \cdot (0.005 - 0.0025 \cdot t_i)$$

これで、気液平衡計算と微分方程式の数値解析は免許皆伝